

的場 かおり
法学研究科・教授

[研究]

◆公表論文

- ①的場かおり「近代ドイツにおけるユダヤ教徒と法専門職」『法と文化の制度史』5号、21～49頁(2024年5月)招待有
- ②的場かおり「ドイツ第一波フェミニズムにおける集会・結社の自由と参政権」『阪大法学』74巻3・4号 75～104頁(2024年11月)

◆学会開催

「第75回法制史学会総会」の準備委員として、2024年5月25日(土)・26日(日)の2日間にわたり大阪大学で学会を開催した。2つのシンポジウムと3つの自由報告、懇親会を提供した。新型コロナ以降はじめてとなる「全面対面」での開催であったが、国内外より延べ200名を超える参加があり、盛況のうちに終えることができた。

◆「ホームカミングデイ2025」特設サイトによる研究紹介

「研究室紹介～大阪大学の魅力を探る～」というテーマの下、研究内容を紹介する動画作成に協力した。

[教育]

◆法学部

・「西洋法制史」では、受講生が意見交換し発表する機会を設け、主体的に授業参加できる講義を展開した。スライド資料を提示(講義後はCLEで配信)し、レジュメ以上の学習ができる工夫を凝らした。

・「法政導入演習」では「ジェンダーと法」をテーマに、法学初学者に必要な基礎を学ばせ、レジュメ・レポート・論文の作成、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションといった能力を磨かせた。

・「演習a・b」では、ヨーロッパの判例を素材に、西洋法の歴史の変遷のみならず、報告資料の作り方、議論の仕方を教授した。受講生は多様な観点から分析し、活発に議論してくれた。4年生の卒業論文は「青雲会懸賞論文・法学部門」の1席に選ばれた。また、演習の様子は「法学部パンフレット2025」に紹介された。

◆法学研究科

・「西洋法史」・「西洋法制史特殊講義」では、ヨーロッパを代表する法学者の法理論を吟味した。また受講者の研究テーマと関連づけ、法学者の理論や著作について議論を行った。

・西洋法制史を専攻する博士前期課程1名、博士後期課程1名の研究および論文指導を行った。後者は、『阪大法学』への掲載に申し込んだ(2025年3月)。

◆高校での活動(大阪府立高津高校)

・10月に、約100名の1年生対象に模擬授業を行った。刑事司法の在り方について現行制度とその歴史を講義した。

・1月には、2年生の「研究発表会」に参加し、法律・経営分野を扱った5チームの研究発表を講評した。研究内容と課題、発表・資料作成のルール、チームワークなどの観点から評価した。

[管理運営]

◆法学研究科・高等司法研究科室員

「計画室」員および「法学会」運営委員会委員を務めた。後者では編集委員も務め、『阪大法学』の刊行にかかる審議に参加した。

◆法学研究科部内委員会委員

「運営委員会」委員および「大学院教務委員会」委員を務めた。後者では委員長として、研究科の教育・研究の改善、入試業務に携わった。

[社会貢献]

◆法制史学会

「第75回法制史学会総会」準備委員として、5月に学会を開催した。

◆地方公共団体等の委員

- ・和泉市の「情報公開・個人情報保護審査会」、「政治倫理審査会」、「行政不服審査会」の委員を務めた。
- ・大阪市の「人権施策推進審議会」委員を務めた。

- ・大阪府の「情報公開審査会」委員を務め、10月以降は同審査会の第二部会長を務めている。
- ・公益財団法人東海ジェンダー研究所の評議員を務めた。